

(世界史プリント8-6)

5. 列強の進出と中国の「近代化」 a, ロシアの東方進出

b. アヘン戦争とアロー戦争(2)(p276 ~ 277)

⑤アヘン戦争による自由貿易の強要→しかし貿易の伸張は少ない=英の産業資本家らの不満



⑥ 1856 [1] 事件を口実に[2] とともに[3] を起こす
→ 1860 北京占領(離宮[4] を破壊)

カスティリオーネ(仏宣教師)設計

⑦ 1858 天津条約 1860[5] 条約を締結

北京条約の内容

- 1)公使の北京駐在 2)天津など 11 港の開港 3)[6] の自由承認
- 4)イギリスに[7] の割譲

c, 太平天国の乱(p258 ~ 259)

①アヘン戦争後の華南=手工業の解体、増税、銀流出→不景気、民衆不満の増大

② 1851、[8]、キリスト教的宗教結社を率いて華南で反乱を起こす

([9] の乱 ~ 1864)

1)スローガン[10]

11

- 2)土地制度 [12] =土地の平等な再分割を主張
- 3)外国との対等平等な外交
- 4)男女平等、纏足の禁止、辮髪(お髷)の禁止、アヘン厳禁

③これに対し

1)地主勢力=私兵集団([13])を組織し対抗
曾国藩「湘軍」、[14]「淮軍」など

2)[15] 勢力=「常勝軍」を組織、地主勢力に協力

d. 洋務運動の進展(p259)

①太平天国鎮圧の中心となった漢人([16]、李鴻章ら)の台頭、政治の中心となる

[17] 政権…[18] の技術・制度を取り入れた改革を進める

この時期の改革=[19]、この運動=[20]

スローガン=「 21 」

22

限界=[23] に限定し[24] には手をふれない

→欧米諸国には追従的、国内・周辺諸国には高圧的

③ 1884 ~ 85 [25] 戦争、1894 ~ 95[26] 戦争の敗北で挫折(p281)

日清戦争=[27] への進出・植民地化をめざす日本と、宗主権を主張する清国との間の戦争、朝鮮での反封建農民運動([28])をきっかけに発生



この結果、[29] 条約を締結

1)朝鮮の独立承認、2)日本への遼東半島、[30] などの割譲、3)賠償金支払

e, 中国分割の進行(p272 ~ 273)

①日清戦争以後、列強の中国進出本格化

1)列強の租借地の承認

2)[31] 権や鉱山採掘権、関税特権など勢力圏の設定の承認

3)外国人経営の工場設立や[32] の受け入れなど[33] の輸入

②ロシア

極東への進出を強化

1858 アイグン条約、1860[34] 条約=沿海州など獲得(p280)

[35] 鉄道の敷設(フランスの協力)



中国東北部(満州)、蒙古、朝鮮方面への進出をめざす

仏、独とともに日本に圧力をかけ遼東半島を返還させる([36])

東清鉄道敷設権獲得

[37] [38] を租借

→[39] との対立激化→ 1904 ~ 05[40] 勃発

③アメリカ 1899 年国務大臣ジョン=ヘイが中国の[41] [42] [53] を提唱